



情報システム委員会

★ ミッション ★

情報システム観点から知財課題の調査・研究を行い「企業内外の情報システムのあるべき姿」を、国内外の企業・特許庁・特許事務所に対して情報発信・提言を行う。

★ 活動方針 ★

全てのテーマにおいて、単年または2年での成果を論説または資料発行できる形にまとめる。
また、部会発表、定期研修において、有益な情報を会員企業に提供する。
とにかく楽しく！全員が爪痕を残す活動を！！

★ 運営 ★ (敬称略)

担当理事：別宮(日産)
委員長：松本智(日立)

正副委員長会
(委員長・副委員長)

定例会は1回/月開催
10:00～：正副委員長会
13:30～：全体会,小委員会活動

第1小委員会
5名

小委員長：三井(Honda)
補佐：佐藤(東芝IPR)

第2小委員会
7名

小委員長：西田(アイピクス)
補佐：藪田(クラレ)

第3小委員会
11名

小委員長：内山(帝人)
補佐：鬼丸(住友ゴム工業)

第4小委員会
7名

小委員長：山口(神戸製鋼)
補佐：田中(セイコーエプソン)

※ 下線は国際政策PJメンバ

- 日本特許庁連携 (インターネット出願ソフトウェア連絡会、グローバルDシエ(国際政策PJ連携)、デジタル・ガバメント中長期計画)
→第1小委員会が担当。
- 定期研修C9Eコース担当
- 今年度より3小委→4小委員会体制とした。(2019年31名)



情報システム委員会 第1小委員会

◆ テーマ名

様々な公的機関のシステムより正しいデータを入手（そのシステム自体を活用）し、企業の管理システムへの情報取り込みやその他従来の業務において活用する方法の調査・研究

◆ 狙い

- ・現在ユーザーに与えられている環境の中で実現可能な知財情報入手・活用方法を提案することで、より効率的且つ正確な知財活動に貢献する。
- ・研究を通して抽出した課題や将来的なあるべき姿を特許庁等と共有することで、出願人・代理人・特許庁等における将来的なより良い環境づくりに貢献する。

◆ 活動の概略

グローバルな知財情報を得る為の手段の1つであるPATENTSCOPE (WIPO)の実状と課題の調査・研究を行う。

- ・最新状況、ユーザー実態を踏まえ、どのような用途でどう活用すべきかを提案する。
- ・グローバルDシエ(GD)サイトを含む、公的機関からのデータ提供のあるべき姿を検討し、**公的機関システムや企業側の環境（システム・運用・人）の将来像**を提案する。

また、五大庁で取り組んでいるグローバルDシエタスクフォースでの議論テーマにも注視し、JIPAとして意見発信できるよう準備を行う。GD開発優先5項目以外にも、JPOが検討をリードするAPIに対応できるよう調査研究を行う。

◆ アウトプット&スケジュール



論説投稿：2020年4月／東西部会：2020年4月

～世界から期待され、世界をリードするJIPA～



情報システム委員会 第2小委員会

◆ テーマ名

企業内での知財情報の活用に関する調査・研究
(IPランドスケープにおける情報システムの活用)

◆ 狙い

過去の活動（特に2015年度～2017年度）を参考に、新たな視点での情報システム（情報分析ツール）の調査・研究を行う。

◆ 活動の概略

実際にあったM&Aを題材に、「もしも知財部が経営層から意見を求められたら」という状況を仮想し、当該知財部の立場になってIPランドスケープを実践してみる。

IPランドスケープを実践する過程で、情報分析ツールの選定や使い方等について調査・研究する。

◆ アウトプット&スケジュール

論説投稿:2020年4月／東西部会2020年4月





情報システム委員会 第3小委員会

◆ テーマ名

国内外の知財管理システムに関する調査・研究

◆ 狙い

最新の知財管理システムの提供環境や機能、企業における利用実態や課題、また、その解決手段等について調査研究を行う。

JIPA会員企業が知財管理システムを選定する際に参考となる情報を発信する。

◆ 活動の概略

最新状況を踏まえた知財管理システム導入における留意点をまとめた別冊資料の作成。

情報システム委員会では、2004年度検討（知財管理システム導入における留意点）、2005年度検討（ワークフロー導入における留意点）のそれぞれの成果について2006年に論説の形式で纏めた。

しかしながら、当時と現在とではIT環境等も大きく変わっており、適切な内容とは言えない箇所が発生していること、記載内容も必要十分とは言えなくなったこと、を受けて最新状況の反映、内容拡充を行う。

◆ アウトプット&スケジュール

別冊資料原稿投稿:2021年4月





情報システム委員会 第4小委員会

◆ テーマ名

知財業務の効率化に関する調査・研究

◆ 狙い

最新のICTシステムを活用した知財業務の効率化について、実態調査を行う。

より具体的には、**RPA (Robotic Process Automation)** 技術について、企業における知財業務への活用実態を明らかにすること、RPAの導入・活用のための具体的なイメージができること、を目指す。

◆ 活動の概略

1. 会員企業へのアンケートや、先進的導入企業へのヒアリングを通じて、対象業務の選定や、導入の流れ、導入後の効果確認などを明らかにし、今後導入を検討する会員企業への指針とする。
2. 知財管理システムベンダへのアンケート調査やヒアリングを通じて、知財管理システムとRPAの連携に関する現状を明らかにし、会員企業が知財管理システムやRPAを導入する際の参考情報を提供する。
3. 最新のRPA技術動向に関する情報を収集する。

◆ アウトプット&スケジュール

論説投稿:2020年4月／東西部会2020年4月

